善正寺だより

〒:512-0902
三重県四日市市
小杉町1014
浄土真宗
本願寺派
善正寺
☎:059-331-1670
fax:059-332-0733

掲示板法話

お浄土があってよかったね

今年のノーベル医学・生理学賞受賞が決まった本庶佑（ほんじょたすく）先生が愛知県の大学で講演。ガン免疫療法の研究成果やその応用範囲が広がりつつあることを話されましたが、「感染症やガンによる死を恐れずに済むようになったら、人はいつまでも生きたいと望み、それで幸せになるのか」と問いかけ、「終末期医療を真剣に考えることが重要」と言われたのです。つまり、長寿時代と言っても、人生には限りがあり、いつか終わりの時が来る。死んだらどうなるのか？このまま命終わっても悔いはないのか？・・・

長寿が当たり前、死は忌むべきものという風潮が蔓延し、霊柩車の通行を住宅地の住民が反対して迂回させた、という話を名古屋のお葬式に行った時、八事霊園から戻るタクシーの運転手さんから聞きました。「自分は死なないと思っているのですかね」と運転手さんは苦笑していました。本庶先生のお話はこんな時代の我々に対する重要な問題提起ですね。

「医者は坊主でもあれ」と随分前に言ったのは東大の総長をされた矢内原忠雄先生です。医学生に向かって「君たち、救う、救うって言うが、医者が最後までは救えないでしょ。何回救っても、また再発してくる。ああ、申し訳ない。救えません。もうここからは私の手に負えません」と匙を投げる時が来る。医者が坊主でもあることで「死んだらおしまいではない。死は往生浄土だ」と言えるのが「坊主でもあれ」ということの意味合いです。

長らく病院でビハーラの会をしている宮崎ホスピタルでは病室でお念仏が交わされます。ある転移ガンの患者（Tさん）に「今度の病気は治らないかもしれません」と言うと一応「分かりました」という顔ながら、辛さを訴えました。「Tさん、南無阿弥陀仏とは『あなたを必ず救う。心配するな。お浄土に救いとるから任せなさい』という仏様のお呼び声なの。阿弥陀様はあなたをもう抱っこして下さってるのよね。Tさん、お浄土があってよかったね。一緒にお念仏しましょう」と先生が言うと辛そうな顔に満面の笑顔が現れて、「南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏、先生有難う」とTさん。すると傍にいた看護師さんも枕元に走り込んで「よかったね、安心できてよかったね」と涙一杯の顔で喜びを分かち合いました。患者、看護師、医者といううわべの立場を皆捨てて、阿弥陀様の無条件の救いに遇ったのです。まるで、磁石に吸い寄せられるように安らぎの温もりが病室一杯に満ち溢れたのです。「如来の本願は磁石のようだ。衆生は本願の因をお念仏から吸って救われる」という親鸞様のお言葉ぴったりのお話です。

「お浄土があってよかったね」。ここにこそ、生死（の迷い）を超える世界が開かれているのです。

☆行事ご案内

報恩講　講師　守快信（もりかいしん）先生（滋賀）

１１月２日（金）午後１時半・夜６時半

（夜は親鸞聖人ご生涯映像、音楽法要、琴演奏、法話）

※お非時は２日午前１１時より１２時、どなたでもどうぞ

３日（土）午前１０時（弁当あり）・午後１時

※午後１時は三全仏教婦人会主催の『報恩講』

◇秋勧進１１月２３日（金）午前８時より巡回よろしく

◇お内仏報恩講１２月１日（土）午前１０時半、お弁当用意

◇「第８回百五銀行阿倉川支店で善正寺門徒展」１０月１カ月
　１１月２日、３日の報恩講中も本堂で展示。

◇絵手紙教室１１月１３日（火）午前１０時　初心者大歓迎

◇キッズサンガ１１／１０（土）午後４時、鐘つきは毎日５時

◇三重組コーラス１１／２２日本山御堂演奏会１６回目の参加

◇善正寺ホームページ「三重善正寺」で１年分寺報閲覧
ブログ『住職と坊守のつれづれ日記』毎日更新、開設１０年
３か月で２７万７千訪問一日約７０人、悩み相談歓迎、即返信

◇一縁会テレホン法話：０５９・３５４・１４５４で３分法話

◇新納骨堂；後継者の無い方、お墓でお困りの方ご相談下さい

◇法事場所でお困りの方、寺にご相談下さい。本堂使用可

☆　写真アラカルト　☆

坊守（ぼうもり）スケッチ　挨拶は心の扉をノックする

私は毎朝垂坂山で出会う人と挨拶を交わします。住まいも名前も全く知らない者同士。決して家庭事情には踏み込まないのが原則です。声の調子や顔付で相手の心の内が推測できます。でも中にはそっと相談する人もいます。そんな時でも分かった振りしてアドバイスをせずに聞き役に徹します。何故ならば、私にはそれを解決する能力もなく、私自身も日頃の悩みやストレスを、垂坂山の自然に接することで自ら乗り越えてきたからです。

時には挨拶をしても無視していく人もいます。昼間見ず知らずの人と街で出会い、挨拶したら変に思われて当然ですが、山登りや散歩で出会う人は、皆仲間のように思えて挨拶を交わすのが当然だと思えるから不思議です。

ところで毎日新聞「女の気持ち」に東京の女性（60歳）の投稿が目に留まりました。「私のマンションは8階建て40室。エレベーターで会っても誰も挨拶はしない。だから名前も階も部屋番号も知らない。お互い干渉しないのが暗黙のルール。ところが最近単身赴任してきた上層階の男性から干し柿を頂いた。頂く理由がないと断ると『いつも会釈してくれてありがとう。都会流の付き合い方が分からず自分は嫌われていると思い込みました。故郷から送ってきました』と言われ、それ以来挨拶を交わすようになった」

最近若者の間では『ぼっち』現象というのが浸透しています。煩わしいのが嫌で、学食でも教室でもいつも一人ぼっち。だからSNSやネットで繋がっていないと不安を覚えます。『ぼっち』やネット依存を軽く考えるべきではないと、専門家は警鐘を鳴らします。孤立や疎外感は、うつや自殺と関連があるからです。若者の『ぼっち』現象は、私達親世代にも責任があります。冠婚葬祭の人間関係が煩わしいと避けて、親戚や地域のご縁を粗末にしてきた姿を、子供世代は見てきました。先ずは私達が出会った人と、積極的に挨拶を交わしましょう。「挨拶は心の扉をノックする」ことだと思います。

カンパありがとう！

内田宣撫子様、他よりお志、切手等頂戴しました。感謝いたします。

寄稿　四日市　釈妙水

秋ナスや思い届きて揚げびたし
味ごはん開けたら香る新生姜
外風呂に旋回するや鬼ヤンマ
漫画絵のローカル線や秋日和
法縁の旅の道連れ曼珠沙華　釋清風
無月とてお供え目ざし子ら走る
登校の子ら「行ってきます」と天高し
手に手とり戻る小径や小鳥来る
秋夕焼「ブッダの言葉」手合わせて

☆若院夫婦の『育自な毎日』その47

九月末に小学校の「給食試食会」と「ミニミニ運動会」がありました。

給食の時間に合わせて学校に到着。配膳の様子を見学しました。四限目が終わる少し前に、調理員さんがワゴンで各教室の前まで給食を運んで下さいます。「ありがとうございます！」と、調理員さんへの感謝の言葉が聞かれ感心しました。丁度その週は長男が給食当番。長男は初めのうちは「何をやろうかな？」という感じでウロウロ。そのうち牛乳配りの仕事を見つけてもくもくと働き始めました。

子どもたちが食べ始めたのを見届けてから、保護者も別の教室で自ら配膳します。温かく美味しく、栄養バランスがとてもよい給食を頂き、自分の子供時代を懐かしく思い出しました。

その後ミニミニ運動会では、参加者全員でラジオ体操。次に五月の運動会で披露していたダンスを再演してくれました。長男は運動会の時よりもずっと上手になっていて、成長を感じました。それからクラス対抗の玉入れやゲームなどがあり、勝利すると子どもだけではなく大人も大興奮！久しぶりに童心に返って楽しみました。

入学当初には色々と心配しましたが、クラスの明るい雰囲気や先生方のご指導で、すっかり小学校生活に慣れて楽しんでいるようです。（若坊守）

お知らせ

※『報恩講のお非時接待』十一月二日午前十一時より十二時まで。どなたでもご遠慮なくお召し上がり下さい。

※『第8回善正寺門徒展』が10月の1カ月間、百五銀行阿倉川支店で開催。11月2・3日の報恩講で本堂にも展示します。是非ご覧ください。

※9月中旬、鹿児島霧島温泉の『温泉説法の集い』に住職・坊守が参加。埼玉の川内八重子様が実父の十三回忌法要に、友人・恩師・親戚らに呼びかけて実現。翌日は菩提寺の龍泉寺様と鹿児島別院に円成奉告参拝。三重県からは5名が参加。川内様は初めての試みで、故郷の知り合いに片っ端から案内葉書を郵送。その熱意と行動力に敬意を表します。亡き人をご縁に『仏法の種蒔き』をされた尊いお姿です。

当日会場に「なまんだぶ」煎餅の考案者・姫路の上田ひろ子様から贈られた亡き善正寺先代住職（渡辺尚爾）の色紙額が登場するハプニングもあり、まさしく「往相回向」「還相回向」を身近に受け取る貴重な体験でした。

☆編集子より☆

「善正寺だより」299号をお届けします。◇「医者は坊主でもあれ」の矢内原先生の言葉は宮崎幸枝先生の講演や著書から知った古い話ですが、お浄土を説かぬ坊さんが最近多いと聞けば嘆かわしき事と言わねばなりません。自戒したいことです。◇鹿児島法縁の旅は磁石のごとき法友Kさんに惹かれてのご縁でした。

報恩講シーズンを迎えます。「報恩講って何？」とよく尋ねられます。一言で言えば「親鸞さまありがとうの集い」です。親鸞聖人は浄土真宗を開かれた宗祖。善正寺の境内にも凛々しいお姿の銅像が建っています。ご恩にも、親の恩、師の恩、いろいろありますが、八百年も前に生存された親鸞様のご恩に報いる集いが、戦乱の世も潜り抜けてずっと続けられてきたこと自体が、とても不思議で有難い気持がします。何故ならば現代では「恩」という言葉が死語で使われなくなりました。目の前の全ての現象が、わが力によって獲得されたものと思われがちです。しかし人生には、わが力では及ばない事態に直面しなければならないことが多々あります。長い歴史を振り返ってもどの時代も心安らかな時代はありませんでした。現代さえもかつて経験したことのない天災が次々に襲います。医学が進歩して癌さえも治る病気しかし長寿社会の悩みや弊害、死への恐怖は依然として消えさりません。私達のご先祖が、生きる支えを親鸞様の教えによって如何に乗り越えてきたかを、報恩講でお聞かせ頂きましょう。善正寺では十月二日（金）十一時よりお非時のお接待・ご法話は二日午後と夜（お琴）、三日は午前、午後（三全伯婦）とお聴聞できます。皆様のご参詣をお待ち申し上げます。ところでこの善正寺だよりも来月で第三〇〇号を迎えます。皆様のお育てのおかげです。合掌

平成三十年十一月　　善正寺坊守拝